

2017年度 日本地理教育学会 第67回大会

概 要

会 場：上越教育大学

住所：〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1

交通：北陸新幹線上越妙高駅・えちごトキめき鉄道高田駅・JR直江津駅
(詳しくは大学HPをご覧ください。学内駐車場利用可。)

※宿泊については、高田駅・直江津駅周辺が便利です。

日 程：2017年8月7日(月)・8月8日(火)

8月7日(月)：

受付開始 9:15

一般発表(第1～3会場) 10:00-12:00

昼休み 12:00-13:00 <評議員会 12:10-12:50> (人文棟106)

特別講演 公開 13:00-14:15 (第3会場：第2講義棟202)

シンポジウム 公開 14:30-17:00 (第3会場：第2講義棟202)

総会 17:10-17:40 (第3会場：第2講義棟202)

懇親会 18:30開始(バス移動：18:00-18:20)

会場 宇喜世(国登録有形文化財・料亭, 高田駅より徒歩5分)

〒943-0831 新潟県上越市仲町3丁目5-4, TEL:025-524-2217

8月8日(火)：

受付開始 9:10

研究グループ会合 8:30-9:20

一般発表(第1～3会場) 9:40-12:00

昼休み 12:00-13:00

ワークショップ 公開 13:00-15:00 / ・巡検 13:00(集合12:50)-17:00(バス使用)

そのほか、書籍・教材等展示を予定しています。

※第1会場(講義棟201)、第2会場(講義棟302)、第3会場(第2講義棟202)

※昼食について：両日とも学内の食堂は営業しています。

参加費：大会参加費2,000円(要旨集含む)、懇親会費6,000円、巡検参加費2,000円

※公開部分のみの参加は無料です

後 援：新潟県教育委員会、糸魚川市教育委員会、上越市教育委員会、妙高市教育委員会

新潟県社会科教育研究会、新潟県高等学校教育研究会、上越教育大学社会科教育学会

大会実行委員会：

委員長 志村 喬(上越教育大, shimura@juen.ac.jp)

委員 山縣 耕太郎(同)、橋本 暁子(同)

内 容

公開特別講演 7日13:00~14:15

◇演 者：

D. ランバート博士(ロンドン大学教育研究院(IoE))

◇演題：

地理の教室では、誰が何を考えるのか？（通訳：広瀬悠三(奈良教育大学)）

◇演者説明：

ランバート博士は、国際的な地理教育研究の拠点であるロンドン大学 IoE 地理教育学教室主任教授。講演では、現在の学校で地理を教えることの重要性が、地理授業の「認識の質」や地理ケイパビリティに関連づけて論究される予定。

公開シンポジウム 7日 14:30-17:00

◇テーマ：

地域社会に根ざした地理教育

◇オーガナイザー：

寺本 潔(玉川大学)・大西宏治(富山大学)

◇趣意：

教師を取り巻く様々な制約の中で、地域社会の課題を的確に把握し、教材開発につなげる「地域社会に根ざした地理教育」は今なお重要である。学校外に児童生徒を連れ出すフィールドワークに関して多忙化や引率者不足、安全管理への懸念が相俟って「地域離れ」とも言うべき傾向も生じている。小学校では第3学年の学校の周りの指導が生活科指導と重複し効果があがっていない場面もある。中学校地理的分野「身近な地域」の現地指導は、実施率が3割を切っているとの報告もある。高等学校では依然として地理履修者が少ないままである。一方、「探究」の学びが主の総合では、地域社会における活動はあっても内容から思考・判断する深い学びが少ないのではないかと危惧する意見もある。アクティブ・ラーニングという用語が飛び交う昨今、「主体的・対話的で深い学び」の実現が鍵となりつつある。地域社会を題材として「問い」の深まりを促す地理教育をいかに実現するか、本シンポジウムで論議が深まれば幸いである。

◇パネリスト：

大矢幸久(学習院初等科)：景観を読み取る力を育てる小学校3・4年地域学習

小松 敦(上越市立八千浦中学校)：新潟県公立中学校におけるテーマ別地域巡検の実践—昭和50年代後半の報告—

堀川裕貴子(新潟県立十日町高校)：地形図を用いた学習は教室の外へ—地域に根ざした高校地理教育実践—

◇コメンテーター：

田部俊充(日本女子大学)・池俊介(早稲田大学)

公開ワークショップ 8日 13:00-15:00 (人文棟104)

◇テーマ：

「地理総合」実践に向けた社会系教員対象公開ワークショップ—地理的見方・考え方を自覚化する地理ケイパビリティ・プロジェクト成果研修材体験—

◇担当：秋本弘章(獨協大学)・伊藤直之(鳴門教育大)・金 玗辰(北海道教育大)・永田成文(三重大)ほか

巡検 8日 13:00~17:00 (12:50 人文棟出入り口集合)

◇テーマ：上越地域の雪と生活—真夏に貯蔵雪体験を通して—

◇担当：山縣耕太郎・橋本暁子(上越教育大学)

◇行程：大学発 13:00—東頸城山地の棚田、安塚区の雪利用(安塚中学校の雪冷房等)・牧区の雪利用(岩の原葡萄園の雪中貯蔵施設)を見学・体験—上越妙高駅着・解散 17:00(その後大学へ)

一般発表 1 日目 7 日 10:00-12:00

◇第 1 会場（講義棟 201）

- 101 10:00- 田上拓信(東京学芸大・学)・牛垣雄矢(東京学芸大)：郊外型大規模小売店の未出店地域における地方都市中心商店街の現状—静岡県下田市の中心商店街を事例として—
- 102 10:20- 鈴木秀康(早稲田大・院)：離島における I ターン移住者の特性と地域活性化—島根県隠岐郡知夫村を事例に—
- 103 10:40- 須崎成二(東京学芸大・院)：東京郊外における大学生の生活行動とアルバイト就業に関する考察—東京学芸大学生を事例として—
- 104 11:00- 黒田圭介(西南学院大)・宗 建郎(志學館大)：小学校生活科の教材研究を意識した地理巡検実践—商店街聞き取り調査を例として—
- 105 11:20- 宗 建郎(志學館大学)・黒田圭介(西南学院大)：手書き地図作成を通じた身近な環境への視点—生活科や総合的な学習の時間での活用に向けて—
- 106 11:40- 佐藤浩樹(神戸女子大)：小学校教員志望学生の社会科に関する基礎的知識と教員採用試験—地理的内容を中心に—
- 終了 12:00

◇第 2 会場（講義棟 302）

- 201 10:00- 今池悠太(東京学芸大・学)：伊豆半島ジオパーク下田エリアの活動主体と地域資源としての活用
- 202 10:20- 篠原貴明(同志社中学校)・澤 達大(京都文教大)：創造的思考力を伸ばす地理教育の一考察—「観光大使」として地域理解をはかる授業実践報告—
- 203 10:40- 安田一馬(東京学芸大・学)：静岡県河津町における河津桜の地域資源化とその役割
- 204 11:00- 清水大介(都立武蔵中)：地理的見方・考え方を取り入れた校外学習の指導—中学校における農業体験学習を例として—
- 205 11:20- 池下 誠(練馬区立大泉西中)：ESD の視点を入れた中学校社会科のカリキュラムモデル—ESD の視点を入れた中学校社会科地理的分野のカリキュラムを中心に—
- 206 11:40- 永田成文(三重大)：異文化理解を深める中学校における地理 ESD 授業の開発—地域の世界遺産を外国に伝える活動を通して—
- 終了 12:00

◇第 3 会場（第 2 講義棟 202）

- 301 10:00- 菊地達夫(北翔大学短大)：考古学資料を用いての地理・地学的内容の授業実践と効果—小学校教員養成課程「社会」「理科」の授業内容として—
- 302 10:20- 今野良祐(筑波大学附属坂戸高)：新学習指導要領下の地理科目における自然地理学習のゆくえ—気候単元の内容構成に焦点をあてて—
- 303 10:40- 山田周二(大阪教育大)：地形用語の見かけの意味と定義との齟齬—高校地理教科書に掲載されている用語の分析—
- 304 11:00- 大津拓也(東京学芸大・院)・澤田康徳(東京学芸大)：高知県における鼻炎発症の地域性—生気候学的検討—
- 305 11:20- 中牧 崇(東洋大・非)：冬の気候のちがいを地理写真から理解させるための教材開発に関する考察—新潟～高崎間の鉄道移動を中心として—
- 306 11:40- 今井貴秀(広島大・院)：近代繊維産業における水車動力の意義と変遷—長野県と群馬県の比較を通して—
- 終了 12:00

一般発表 2 日目 8 日 9:40-12:00

◇第 1 会場（講義棟 201）

- 107 09:40- 吉田和義(創価大)：チャニー・マナー初等地理コンフェレンスとイギリスの地理教育
- 108 10:00- 村田 翔(広島大・院)・今井貴秀(同)・沖西啓子(広島市立大芝小学校)・阪上弘彬(岐阜高専)・由井義通(広島大)：初等社会科における地図学習実践の試み

- 109 10:20- 籠嶋 迅 (町田市立小山ヶ丘小) : 小学校社会科における過去と現在をつなぐ歴史の授業に関する一考察—地図・地図帳を手がかりに—
- 110 10:40- 中山正則 (埼玉県越谷市立宮本小) : 新学習指導要領改訂における小学校地理教育の改善に向けて
- 111 11:00- 酒井喜八郎 (南九州大) : 景観からの社会科地理アクティブラーニング—小学校中学年の授業づくりへのアプローチ—
- 112 11:20- 椿真智子 (東京学芸大) : 景観写真から読み解く身近な地域—生活景へのアプローチ—
- 113 11:40- 小谷恵津子 (畿央大) : スケール認識形成を意図した小学校地図学習の改善—第4学年における縮尺・等高線の授業開発と実践を通して—
- 終了 12:00

◇第2会場 (講義棟302)

- 207 09:40- 内藤 亮 (東京学芸大・院)・青木 久 (東京学芸大)・牛垣雄矢 (同) : 新旧の地形図を用いた浸水被害の変化に関する教材の作成—2015年9月茨城県鬼怒川水害を事例として—
- 208 10:00- 水野恵司 (大阪教育大) : 大阪府の子ども交通事故危険地域
- 209 10:20- 國原幸一朗 (名古屋学院大) : 東海豪雨後の名古屋市における防災の変化—名古屋市会録を手がかりとした授業の視点—
- 210 10:40- 荒井正剛 (東京学芸大) : 景観写真と地域イメージ
- 211 11:00- 久保田充 (富山県立雄山高) : 「日本の自然」の授業実践と考察—景観とワークショップを取り入れた, 中学校社会科地理的分野の試み—
- 212 11:20- 高橋珠州彦 (明星学園中・高) : 中学校歴史分野の学習における地理的要素の導入—草の根の人物から考える日本統治下の朝鮮半島—
- 213 11:40- 金 玟辰 (北海道教育大) : 地理的な見方・考え方を導く地理的問い—香港とシンガポールの中学校地理カリキュラムの比較を通して—
- 終了 12:00

◇第3会場 (第2講義棟202)

- 307 09:40- 久保哲成 (兵庫県立柏原高) : 昭和61年度(1986)から平成7年度(1995)における兵庫県高等学校地理教員の数的・質的特徴とその変化
- 308 10:00- 木谷隆太郎 (東京学芸大・院) : 高等学校地理A・Bにおける地理的知識・技能と職業との関連—社会人を対象としたインタビュー記事の検討を通じて—
- 309 10:20- 五十嵐和也 (都立保谷高) : 高等学校地理における日本の人口問題の授業実践—人口減少時代における「移民」について考える—
- 310 10:40- 金田啓珠 (山形県立長井高/山形大・院) : 高等学校地理における探究的な学びの追究—地理A・地理Bの授業実践を通して—
- 311 11:00- 阪上弘彬 (岐阜工業高専) : ドイツにおける持続可能なトライアングルを用いた地理学習の特徴
- 312 11:20- 山内洋美 (宮城県塩釜高) : 高校地理B・ジグソー法の手法によるアフリカ地誌授業の試み—「地理総合」国際理解と国際協力単元の実践のために—
- 313 11:40- 福田 直 (武蔵野学院大) : 高等学校における地理歴史, 公民, 理科の横断的, 総合的な土壌教育実践
- 終了 12:00

<研究グループ>

- ・観光教育の教材開発研究グループ (代表: 澤 達大, 京都文教大)

2日目 8:30-9:20 に人文棟1階106教室にて第1回会合を開催します。オブザーバーでの参加者を募集しています。出席の有無にかかわらず興味のある方, オブザーバーでの参加を希望される方は代表者に連絡の

こと。連絡先: t-sawa@po.kbu.ac.jp (澤)